

enclosed in petiole sheath, 1.5 to 2.5 cm long; branches 2 to 4, verticillate, stout, smooth or loosely verruculose, rectangularly divergent, 4 to 5 cm in length, bract scale ovate-oval, obtuse-tipped, about 7 mm long. Receptacles depressed-globose, 7 mm across, about 25-flowered; pedicels 2 to 2.5 cm long, wiry. Berries ovoid-globose, 2.5 cm long, 2 cm across, probably dark purple-blue when mature. Staminate flower not seen.

Holotype: Malay Peninsula, Perak. Dr. King's Collector, K; isotype in SING!

Specimens examined: Malay Peninsula: Perak, Taiping Hill 800 ft. (M. R. Henderson 10008, SING); Ditto (Ridley 11403, SING); Waterfall Hill (L. Wray 2063, SING).

Distrib. Endemic in Malaya.

私は昨年インドシナのサルトリイバラ属を研究して以来、東南アジアの本属植物に非常に興味を感じていた処、その直後シンガポール植物園長のシンクレア氏が同園腊葉庫所蔵のサルトリイバラ類約 500 点を貸与された。それらを研究の結果インドシナ・マレーシア・台湾の種類についての新事実が種々判明しつつある。以後これらをグループごとにまとめて発表したいと考えているが、本属では日本のサルトリイバラに見る様に葉の形が非常に変り易い上、記載もしにくいため、最終的な結果に漕ぎつけるためには英国キュー植物園から相当数のタイプ等標本の写真の贈与を受けねばならなかった。又、今夏米国の主要腊葉庫を訪ねて中国の標本を閲覧して正確を期すべく努めた。今回扱ったものはマレーの *S. Blumei* を主体とするグループで、図示した様な巨大な葉と特異な花序は日本では想像に難いものであろう。

○故柳田由蔵氏の森林樹木の稚苗図説について (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI; On the reprint and their pagination of Shinrin-Jumoku-Chibyo-Zusetsu or illustrations of Seedlings of Japanese Forest trees by Yoshizo Yanagita.

いろいろ必要があつて、この文献をしらべたので、ここに記しておく。これは、柳田氏が、多年にわたつて実際に発芽させたものの見とり図をとり、かつ記述したもので、林学会賞を得た仕事で、林学会雑誌 9 巻 (1927) — 25 巻 (1943) に連載されたもので、605 種を扱つてあり、25 巻には総索引がつけてある。柳田氏は別刷を五編つくつてているが、24 巻にのせた分は別刷が配布されなかつた。また 25 巻の総索引も同様である。それ故流布されている別刷は 5 冊で 649 種 (図説された種には通し番号がつけてある) までで、林学会雑誌 24 巻 (1942) 分、すなわち 589 号から 605 号までは除外されている。これらはおもに熱帯性のものである、これは当時そういうものが入手できた事情によるものと考えられる。尚 25 巻掲載の総索引ももちろん除外されている。それから、別刷表紙に印刷されている林学会誌の巻数号数には誤植があり、また各頁の頁数はその篇独特のもので林学会誌の原文の丁づけとは無関係のものである。